

A field guide for the mushrooms of Kii-oshima Island, 2000

紀伊大島 きのこガイド 2000

梅本信也・種坂英次





和歌山県西牟婁郡串本町20世紀紀伊大島全図



ナカグロモリノカサ (⇒ p.25)



クロタマゴテングタケ (⇒ p.26)



カバイロコナテングタケ (⇒ p.27)



シロオニタケ (⇒ p.27)



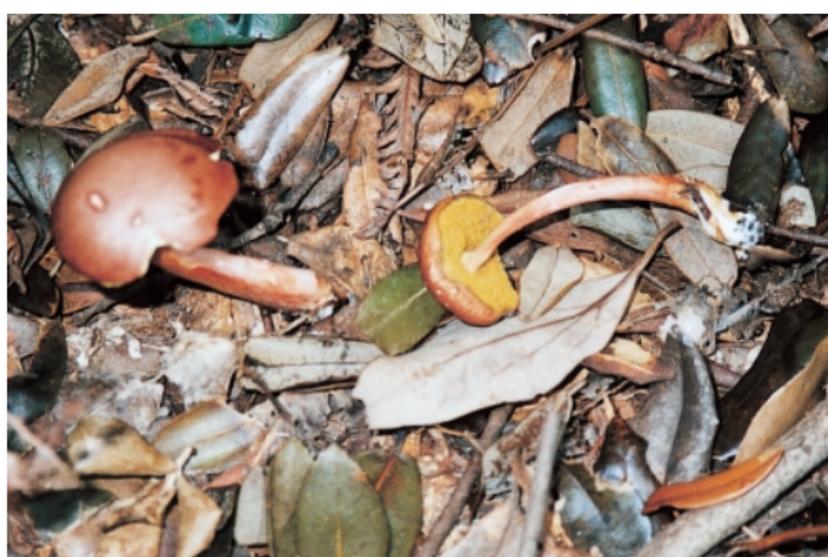
シロオニタケ (⇒ p.27)



ツブエノウラベニイグチ (⇒ p.28)



キニガイグチ (⇒ p.28)



ウツロイイグチ (⇒ p.29)



ベニヒガサ (⇒ p.31)



ベニヒガサ (⇒ p.31)



アキヤマタケ (⇒ p.32)



ウスヒラタケ (⇒ p.32)



ウスヒラタケ (⇒ p.32)



クロハツモドキ (⇒ p.34)



スエヒロタケ (⇒ p.35)



コオニグチ (⇒ p.35)



センボンイチメガサ (⇒ p.36)



ヤグラタケ (⇒ p.36)



シロヒメカヤタケ (⇒ p.36)



エセオリミキ (⇒ p.36)



シイタケ (⇒ p.38)



クヌギタケ (⇒ p.38)



サクラタケ (⇒ p.38)



ヌメリツバタケ (⇒ p.39)



ウロコオクバタケ (⇒ p.40)



シロコメバタケ (⇒ p.40)



マンネンタケ (⇒ p.40)



マンネンタケ (⇒ p.40)



オオタバコウロコタケ (⇒ p.41)



オオタバコウロコタケ (⇒ p.41)



ダイタイタケ (⇒ p.41)

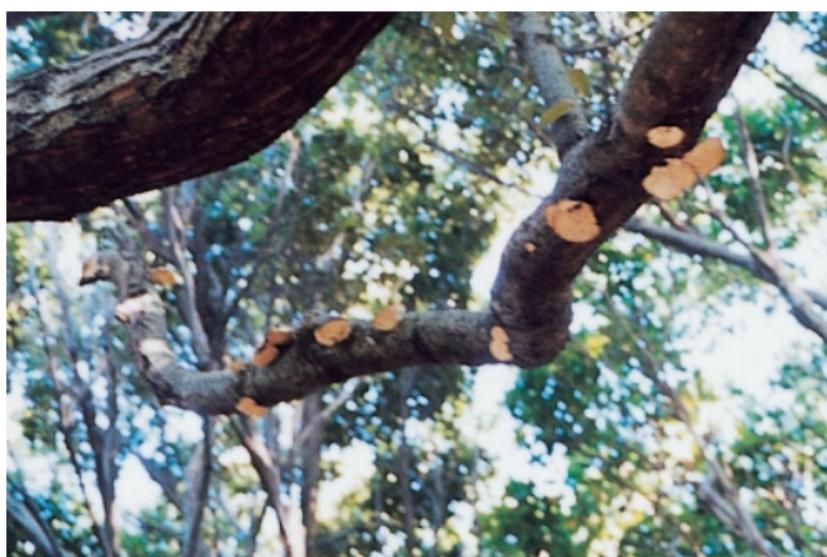


ダイタイタケ (⇒ p.41)



サジタケ

(⇒ p.41)



ネンドタケ

(⇒ p.41)



シクイタケ

(⇒ p.42)



シクイタケ

(⇒ p.42)



センベイタケ (⇒ p.42)



センベイタケ (⇒ p.42)



カワラタケ (⇒ p.42)



カワラタケ (⇒ p.42)



コフキササルノコシカケ (⇒ p.42)



フルイタケ (⇒ p.43)



ウチワタケ (⇒ p.43)



ウチワタケ (⇒ p.43)



シイサルノコシカケ (⇒ p.43)



シイサルノコシカケ (⇒ p.43)



アナタケ (⇒ p.44)



アナタケ (⇒ p.44)



モミジウロコタケ (⇒ p.45)



キツネノエブデ (⇒ p.47)



スッポンタケ (⇒ p.47)



クチベニタケ (⇒ p.47)



クチベニタケ (⇒ p.47)



ベニチャワンタケモドキ (⇒ p.51)



クロコブタケ (⇒ p.52)



クロコブタケ (⇒ p.52)

はじめに

日本列島は本州最南端の町、和歌山県西牟婁郡串本町本土側の東部沖1.3kmにある紀伊大島は暖温帯に位置し、年間平均気温は約17℃で年間降水量は2,700mmを超えることが多い、意外に水の豊富な島である。冬でもなかなか枯れない多数の小川が、おもに熊野酸性岩などで構成された台地状の島に深い谷を作る。江戸時代には、江戸や上方への風待ち地になったほか、アメリカなどの船が水や薪を求めてこの島にやってきた。

紀伊大島では、典型的な暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）が形成され、高い種多様性が保たれてきた。1940年頃の植物相をまとめた並河功による「大島植物目録」では、島内に自生する羊歯植物以上の高等植物として595種が列挙された。1999年におこなわれた植物相調査をまとめた京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所編「紀伊大島植物目録」(Flora of Kii-oshima Island, 1999)では、羊歯以上の高等植物が131科735種、コケ類が45科139種、キノコ類32科111種がリストされた。

紀伊大島の林には、ウバメガシやスタジイ、イヌビワ、ヒサカキ、ヤブツバキ、モッコク、タイミンタチバナ、ヤマモモ、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、カラスザンショウ、アカメガシワ、ヒメユズリハ、カクレミノ、モチノキなどの広葉樹に加えて、スギ、ヒノキおよびマツ類などの針葉樹が分布する。紀伊大島各地区の魚附林（うおつきりん）にみられるスタジイ類は特筆に値する巨木である。

このような紀伊大島の森林やそれを取りまく生態系は、沿海も含めて、紀伊大島とその周辺住民によって営々と今世紀末まで守護されてきたものである。それらは、金銭的、経済的な価値に代え難い貴重な環境・生物資源であり、一つの文化財である。有用・有毒・有用性未詳に関わりなくキノコ類もその一部であることを記しておきたい。そして、串本大橋開通後も絶やすことなく、キノコ類を含む貴重な生態系を21世紀の子孫達にも伝承していく義務が私達にある。

この紀伊大島キノコガイドは、串本大橋完成前である1999年8月までの紀伊大島キノコ類調査資料と1990年代の紀伊大島キノコ類に関する食文化調査結果を基礎として、「今関六也 本郷次雄：原色新日本菌類図鑑 I およびII、保育社、1987～1989」や「今関六也ら編：山溪カラー名鑑 日本のキノコ、山と溪谷社、1988」、「城川四郎：猿の腰掛け類きのこ図鑑、地球社、1996」などの市販図鑑類を大いに参考にしながら、15年来の友人である私達が約200km離れたパソコンを使い、インターネット上で共同作成したものである。

このキノコガイドの各解説は出来るだけ平易な表現を試みたが、形態や生態表現の一部はどうしても専門用語を使わざるを得なかった。将来はさらに使いやすいように改良や工夫を重ねるつもりである。

キノコの多くは食用時の毒性情報が不明確であり個人差も大きく、さらに紀伊大島地方の中毒経験集積も少ないので、専門家や経験者以外の人は面白がって口に入れない様に願います。

一部の属名は、和属名がはっきりしないので学名をそのままカタカナ表記した。

採取菌の標本、および発生地、基質、あるいは孢子形態などの記録は和歌山県串本町にある京都大学附属亜熱帯植物実験所に保管されている。オオタバコウロコタケ標本についての完全な分類学的記載は滋賀大学の横山和正教授によって保管されている。

滋賀大学の横山和正教授にはオオタバコウロコタケ標本を同定していただき、本菌に関する文献を御紹介いただいた。紀伊大島の檜野在住の岩谷知明氏（元串本フェリー勤務）には、ご多忙にもかかわらず大森山周辺を御案内いただいた。キノコ地方名採集には多数の島民の方々にお世話になった。以上の方々に深謝申し上げます。

なお、このキノコガイドの作成には私達の薄給を投じたほか、和歌山県庁企画部・平成12年度「和歌山学21」地域連携推進事業補助金・交付研究「紀伊半島における郷土資源植物複合の伝統的保全に関する研究：The scope of on situ conservation of resource plants complex in Kii Peninsula, 2000」（代表研究者：梅本信也）助成金の一部も充てた。

紀伊大島キノコ類の特徴

このキノコガイドには、担子菌亜門の29科111種以上、子囊菌亜門の3科3種の外部形状、生態、島内の確認産地が解説され、数種の写真が紹介されている。

掲載された種のなかでテングタケ科、イグチ科、フウセンタケ科、ベニタケ科、オニイグチ科、アンズタケ科に属するほとんどの種は外生菌根菌であり、確認種全体の約35%であった。これらの種は樹木の根との共生体（菌根）を介した養分のやり取りによって、特定のあるいは複数の樹木種と相利共生の関係をもつものである。こうしたさまざまな菌根菌は紀伊大島にある植物の種多様性や植物の健全な生育と有機物生産量の維持に貢献している。また、特にイグチ科やオニイグチ科に属する確認種のほとんどが、熱帯・亜熱帯地域に起源するキノコであることも興味深い。

一方、菌根菌を除く約65%の種は立枯木、倒木、枯枝、落葉などを腐朽する腐生菌であり、有機物分解を担う。こうした種は広葉樹枯木を基質とする白色腐朽菌であったが、特にカワラタケ (*Coriolus versicolor*)、ウチワタケ (*Microporus flabeliformis*)、ネンドタケ (*Phellinus gilvus*)、アラゲキクラゲ (*Auricularia polytricha*) および樹皮に白いペンキを懸けたように見えるコウヤクタケ科 (Corticaceae) の1種 (未同定) は紀伊大島全域に大量に分布していた。

針葉樹枯木を基質とする褐色腐朽菌としてヒロハノキカイガラタケ (*Gloeophyllum subferrugineum*) とアオゾメタケ (*Oligoporus caesius*) がスギ丸太上に、ブドウタケ (*Fomitopsis vinosa*) がヒメキシメジ (*Callistosporium luteoolivaceum*: 腐朽型は不明) とともにクロマツの枯株に発生していた。これらは腐生菌全体の約4%、ヒダナシタケ目全体の約10%にあたる。この値は日本に分布するヒダナシタケ目全体に占める褐色腐朽菌の割合 (約13%)、あるいは北米大陸に分布するそれ (約10%) と比較すると、それぞれ同程度であった。

紀伊大島では、昔アカマツやクロマツの林が海岸域に広く分布しており、これらは魚附林 (うおつきりん) として持続的な沿岸漁業の確保に有効であった。しかし、昭和30年代の松枯れ病によってそのほとんどが失われた。ブドウタケを採取した大森山のクロマツ枯株は腐朽が激しく、かろうじて樹皮が株の形を保っていたものの、蹴飛ばすと完全に崩れた。この株は枯死後10年以上は経過していると思われた。現在は、クロマツ若齢林が海岸部に散在するが、その他の針葉樹としてはスギやヒノキの小規模な植栽林が点在する程度である。このような林で、上記の褐色腐朽菌は今や細々と生き延びている。

倒木のような大型リターにはタコウキン科のカワラタケ、フルイタケ、ウチワタケ、ヒイロタケ (*Pycnoporus coccineus*)、シロカイメンタケ (*Tyromyces sambuceus*) およびタバコウロコタケ科のオオタバコウロコタケの発生が多かった。枯れ枝などの中型リターには、カワラタケやウチワタケの他にタバコウロコタケ科のネンドタケやコウヤクタケ科の1種の発生が多かった。落葉のような小型リターには、いずれもキシメジ科に属する数種のモリノカレバタケ属菌 (*Collybia* spp.)、クヌギタケ属菌 (*Mycena* spp.)、ホウライタケ属菌 (*Marasmius* spp.) などが見られたが、きのこ発生量は多くなかった。これら落葉分解菌の多くは前述の大中型リターの分解菌と同様に白色腐朽型の腐朽型を示し、厚さ1cm程の粗腐植層中の落葉は黄白色に漂白されていた。一般に、きのこ類は基質に拡がる栄養菌糸体による栄養繁殖と子実体で形成される孢子による有性繁殖を行う。この2つの繁殖様式は生息基質や分布域の違いに応じて、遺伝子型についての保守性と流動性のバランスを保つと考えられている。

一方、落葉上に発生したホウライタケ属菌では、古い子実体の茎の基部および倒れた茎の周囲に菌叢を形成している様子が時折観察された。この菌叢の形は、これらが子実体から脱分化した栄養菌糸体によって形成されたものと考えられた。これは有性繁殖のための子実体が栄養繁殖にも関係していることを示す。またコウヤクタケ科の菌が基物の枯枝と共に地上に落ち、接触した落葉上に菌叢を形成している様子がしばしば観察された。この例は木材腐朽菌の菌糸による落葉への侵入を示すものであるが、これらが落葉分解菌との競争において定着し得るのか、また落葉の分解にどの程度貢献しているのかは今後の興味深い課題である。

紀伊大島産キノコの地方名

紀伊大島では少なくとも100種以上のキノコが記録されているのにも関わらず、その地方名はあまり豊富とはいえない。紀伊半島の山岳地帯や温帯のブナ帯とは異なり、暖温帯の紀伊大島では、キノコ類と人間生活との関係はあまり濃厚ではないようだ。紀伊大島の地方名採取事例を列挙すると、「しーたけ」(シイタケ)、「きくらげ」(アラゲキクラゲ)、「さるのこしかけ」(コフキサルノコシカケなど)、「ちどめ」(シロツチグリ、エリマキツチグリ)である。こうしたキノコ類を総称して「きのこ」と総称している。有毒なキノコ類があるのは周知しているが、具体的にどれが有毒なのかは把握していない。日常的にあまりキノコ類には関心はないと言える。キノコ類の一部の種は、「こけ」と呼称されているが詳細は不明である。

「しーたけ」は、ホダ木で栽培されるシイタケのことを原則として意味する。野生や自生のシイタケのことも知っているが、わざわざそれを取りに行くことはない。生シイタケも料理素材となるが、料理の基本は干しシイタケである。「しーたけ」のアクセントは「し」にある。シイタケでは、地方名が意味する種類概念と分類学の種がほとんど一致する。

「きくらげ」は、山野に自生するアラゲキクラゲのことである。アクセントは「き」にある。一部の住民は、不定期にアラゲキクラゲを山取りして、乾燥して貯蔵しておく。適宜、水戻して食用とする。しかし、シイタケとは異なり、普通なおかず用の料理素材とは言い難い。店先で売られているキクラゲと識別は特にしていないようだ。この場合は、次の「ちどめ」と同様に、地方名称が分類学の属レベルに相当するとみなせる。

「ちどめ」は、開けた場所に自生するシロツチグリやエリマキツチグリに相当する。止血剤として使う人もいるようだ。アクセントはなく、平板的に発音される。

「さるのこしかけ」は、枯死樹木などに腐生するコフキサルノコシカケのことを意味するようだが、タコウキン科の他種やマンネンタケ科の種をも包含する広い言葉である。すなわちこの名称は、原則としては種に相当するが、広義では科名かそれ以上の群にも相当する。このキノコ類は飾りとして使われるほか、頭痛薬などにも使われるらしい。第1アクセントは「さ」に、第2アクセントは「こ」にある。

須江や檜野地区では、「はったけ」という呼称が採取されるが、その正体は未確認である。アクセントは「は」にある。

そのほかにも色々なキノコが島内にあることは認識しているが、特に名前は充てられていない。発生していた場所や樹木、形状を解説し、指示代名詞を用いながら「きのこ」と呼称する。

紀伊大島住民とキノコ類との非濃密な関係は、山野菜の旬採取行動とは対照的である。紀伊大島に自生する「つわ」(キク科ツワブキ、アクセントは「つ」)や「ごんぱち」(タデ科イタドリ、アクセントは「ごん」)、ワラビ(アクセントは「わ」)、ゼンマイ(アクセントは「ぜ」)、ヨメナ(アクセントは「よめ」)には、それぞれ山取りの旬がある。したがって、その季節が来ると心が落ち着かなくなる。そうした食衝動は、魚類についてはさらに顕著である。しかし、キノコ類にはそのような季節感はないようだ。その点、「まったけ」(マツタケ)は、季節の風物詩であるとは思っている。しかし、マツタケが紀伊大島に自生しないためか、山菜や魚のような食衝動はない。

最近では物流の発達で、さまざまなキノコ類が日本全国津浦々の販売店で入手できるようになった。また、新聞やテレビなどのマスコミ情報の浸透によって、ワールド・ワイドな有用キノコ情報が知られるようになった。紀伊大島でも民宿を営む家を中心に、数種の栽培キノコが食されているようだ。森から伐採したスダジイを使い、購入した種菌を打ち込んでシイタケのホダ木栽培も行われる。時には他のキノコの試栽培も半ば趣味的に行われる。余剰な栽培キノコは、袋詰めされて無ラベルで道路際の無人販売店で販売されることもある。しかし、キノコが伝統的および準伝統的な食生活の必要不可欠な一部となったとは言い難いと思われる。

紀伊大島の事例は、照葉樹林帯や南接する亜熱帯地域におけるキノコ類と人間との関係史を考察する上で、ブナ帯のそれと比較して興味深く思われる。今後は、基礎的な民族(民俗)菌類学的地域調査を地道に重ねていくことが必要である。

キノコ早見表

担子菌亜門

■ 真正担子菌綱 ■

■ 帽菌亜綱 ■

ハラタケ目

ハラタケ科

- ウスキモリノカサ 25
ナカグロモリノカサ (写真p.2) 25

テングタケ科

- タマシロオニタケ 25
コタマゴテングタケ 25
ドウシントケ 26
クロタマゴテングタケ (写真p.2) 26
シロオニタケモドキ 26
テングタケ 26
コテングタケモドキ 26
カバイロコナテングタケ (写真p.2) 27
ヘビキノコモドキ 27
シロオニタケ (写真p.2,3) 27

オキナタケ科

- ネナガコガサタケ 27
ハタケコガサタケ 27

イグチ科

- ヌメリコウジタケ 28
ツブエノウラベニイグチ (写真p.3) 28
キニガイグチ (写真p.3) 28
モエギアミアシイグチ 28
クロニガイグチ 28
ミドリニガイグチ 29
イロガワリキヒダタケ 29
ウツロイイグチ (写真p.3) 29

ヒトヨタケ科

- キララタケ 29
イタチタケ 29
ムジナタケ 30

フウセンタケ科

- アブラシメジ 30
カワムラフウセンタケ 30
ウスムラサキフウセンタケ 30
ニセアブラシメジ 30
アカササタケ 31
オオキヌハダトマヤタケ 31
タマアセタケ 31

チャヒラタケ科

- チャヒラタケ 31

ヌメリガサ科

- ベニヒガサ (写真p.4) 31
ベニヤマタケ 32
アキヤマタケ (写真p.4) 32
アカヌマベニタケ 32

ヒラタケ科

- ウスヒラタケ (写真p.4,5) 32

イッポンシメジ科

- トガリウラベニタケ 32
フタツミウラベニタケ 33
シロイボカサタケ 33
ウスキモミウラモドキ 33

ベニタケ科

- アシボソチチタケ 33
クロチチタケ 33
ムラサキカスリタケ 34
カワリハツ 34
クロハツモドキ (写真p.5) 34
ドクベニタケ 34
クロハツ 34
ニセクロハツ 34

ケショウハツ	35
スエヒロタケ科	
スエヒロタケ	(写真p.5) 35
オニイグチ科	
アシナガイグチ	35
キクバナイグチ	35
コオニイグチ	(写真p.5) 35
モエギタケ科	
センボンイチメガサ	(写真p.6) 36
キシメジ科	
ヤグラタケ	(写真p.6) 36
ヒメキシメジ	36
シロヒメカヤタケ	(写真p.6) 36
エセオリミキ	(写真p.6) 36
モリノカレバタケ	37
ワサビカレバタケ	37
ダイダイガサ	37
ウラムラサキ	37
カレバキツネタケ	37
シイタケ	(写真p.7) 38
アシグロホウライタケ	38
クヌギタケ	(写真p.7) 38
サクラタケ	(写真p.7) 38
ヒメチシオタケ	38
ヒダサカズキタケ	38
ヌメリツバタケ	(写真p.7) 39
スギエダタケ	39
キヒダマツシメジ	39

ヒダナシタケ目

アンズタケ科	
アンズタケ	39
ミキイロウスタケ	39
クロラッパタケ	39
コウヤクタケ科	
ウロコオクバタケ	(写真p.8) 40
シロコメバタケ	(写真p.8) 40
シロソウメンタケ科	
ムラサキホウキタケ	40
ベニナギナタタケ	40
シラウオタケ	40
マンネンタケ科	
マンネンタケ	(写真p.8) 40
ラッパタケ科	
シロアンズタケ	41
タバコウロコタケ科	
オオタバコウロコタケ	(写真p.9) 41
ダイダイタケ	(写真p.9) 41
サジタケ	(写真p.10) 41
アズマタケ	41
ネンドタケ	(写真p.10) 41
シワタケ科	
カワシワタケ	42
タコウキン科	
シックイタケ	(写真p.10) 42
アラゲカワラタケ	42
センベイタケ	(写真p.11) 42
カワラタケ	(写真p.11) 42
コフキサルノコシカケ	(写真p.12) 42
オオスルメタケ	43
ブドウタケ	43
ヒロハノキカイガラタケ	43
フルイタケ	(写真p.12) 43
ウチワタケ	(写真p.12) 43
アオゾメタケ	43
シイサルノコシカケ	(写真p.13) 43
ヒイロタケ	44
ホウネンタケ	44
アナタケ	(写真p.13) 44
クジラタケ	44
シロカイメンタケ	44

ホウキタケ科	
ハナホウキタケ	44
ニクハリタケ科	
ニクハリタケ	45
ウロコタケ科	
キウロコタケ	45
チャウロコタケ	45
モミジウロコタケ	(写真p.14) 45

■ 腹菌亜綱 ■

ホコリタケ目

ヒメツチグリ科	
シロツチガキ	46
エリマキツチグリ	46
ホコリタケ科	
ノウタケ	46
ホコリタケ	46

スッポンタケ目

アカカゴタケ科	
サンコタケ	47
スッポンタケ科	
キツネノエフデ	(写真p.14) 47
スッポンタケ	(写真p.14) 47

ケシボウズタケ目

クチベニタケ科	
クチベニタケ	(写真p.14,15) 47

■ 異型担子菌綱 ■

キクラゲ目

キクラゲ科	
アラゲキクラゲ	48

アカキクラゲ目

アカキクラゲ科	
ハナビラダクリオキン	48
ツノマタタケ	48

子囊菌亜門

■ 盤菌綱 ■

チャワンタケ目

ピロネマキン科	
ヒイロチャワンタケ	51
ベニチャワンタケ科	
ベニチャワンタケモドキ	(写真p.15) 51

■ 核菌綱 ■

クロサイワイタケ目

クロサイワイタケ科	
ヒメアカコブタケ	52
クロコブタケ	(写真p.15) 52



担子菌亞門

BASIDIOMYCOTINA

ハラタケ目
AGARICALES



ハラタケ科 (AGARICACEAE)

ウスキモリノカサ

Agaricus abruptibulbus Peck

■ ハラタケ科 / ハラタケ属 / ウスキモリノカサ

傘の直径は、5～11cmで、最初は卵形で後に平らに開く。表面はつやがあり白または淡黄色で、強く触るとシミとなる。ひだは隔生で密、初期には白色であるが後に紫褐色となる。傘の柄は9～13cmで、太さ1cmくらい、中空である。柄のつばは上位で、白から薄黄色である。夏から秋に落葉の多い地上に発生する。本種は日本や北米東部に分布する。須江赤崎で確認。

ナカグロモリノカサ

Agaricus praeclaresquamosus Freeman

■ ハラタケ科 / ハラタケ属 / ナカグロモリノカサ

傘は4から10cm半球形から饅頭型または平らに開き、中盤部は平坦で、表面は褐灰色から黒の鱗片に覆われ、地色は類白色、中盤部では鱗片がなく灰黒色である。肉は白色であるが、柄の基部では傷を付けると黄色となる。ひだは離生し、白色からチョコレート色となる。傘の柄は7～12cmで太さ5～10mmで、白色で傷つくと黄色となる。つばは上位である。夏から秋に、林内地上部に発生する。日本、欧州、北米に分布し、有毒らしい。大耳浜で確認。(写真 p.2)



テングタケ科 (AMANITACEAE)

タマシロオニタケ

Amanita abrupta Peck

■ テングタケ科 / テングタケ属 / タマシロオニタケ

傘の直径は3～7cmで、半球形から饅頭型、さらにほとんど平らに開く。表面は白色、ときには淡褐色を帯びる。肉は白色で、臭いはほとんどない。ひだは離生し、白色である。傘の柄は8～14cmで太さ6～8mm、表面は白色で、つばも白色である。夏から秋に、シノキ林などの地上部に発生する。分布は本州以南と北米東部である。大森山および須江赤崎で確認。

コタマゴテングタケ

Amanita citrina (Schaeff.) Pers.

■ テングタケ科 / テングタケ属 / コタマゴテングタケ

傘は直径が4～5cmで、表面はイオウ色の灰褐色で、中央は暗色である。ひだは白色で徐々に黄色を帯び、離生する。傘の柄は5～10cmで太さ5～7mmで白色である。つばは常に淡黄色である。つばは厚く、白色または橙褐色。夏から秋に、マツ林などに発生する。分布は本州である。大森山と須江赤崎で確認。

ドウシシタケ

Amanita esculenta Hongo & Matsuda

■ テングタケ科 / テングタケ属 / ドウシシタケ

傘の直径は4~12cmで、開くとほとんど平らとなり、表面は灰褐色から暗褐色、大型白色のつぼの破片がつく。肉は白色で、ひだは白色で離生する。傘の柄は6~12cmで太さ6~15mmで、表面は灰色の繊維状の鱗片で密に覆われ、上位に灰色のつぼがある。つぼは白色で、袋状である。シイノキ林等に発生し、食べると美味しいらしい。分布は本州から九州である。里利山で確認。

クロタマゴテングタケ

Amanita fuliginea Hongo

■ テングタケ科 / テングタケ属 / クロタマゴテングタケ

傘の直径は3~5cmで、卵状鐘形から饅頭形を経て平らに開く。表面は暗い灰色で、中央が黒色、かすり模様となる。肉は白色で、ひだは白色で離生する。傘の柄は6~9cmで太さ4~8mmで、繊維状の鱗片に覆われる。根元には白い袋状のつぼがある。夏にシイノキ林に発生する。猛毒らしい。西日本に分布する。須江赤崎で確認した。(写真 p.2)

シロオニタケモドキ

Amanita hongoi Bas

■ テングタケ科 / テングタケ属 / シロオニタケモドキ

傘の直径は15~17cm、初め半球形から平らに開き、最後には中央部がややくぼむ。傘の表面は淡黄褐色または淡褐色で、多数のつぼの破片で覆われる。肉は厚くてしまり、白色である。ひだは離生し、白色からクリーム色である。傘の柄は10~15mmで太さ2~3cmで、下はふくらみ棍棒状となる。つぼは傘の柄の頂部から垂れ下がる。夏から秋にシイノキ林等に発生する。日本の暖地にまれに分布する。須江赤崎で確認。

テングタケ

Amanita pantherina (DC. : Fr.) Krombh.

■ テングタケ科 / テングタケ属 / テングタケ

傘の直径は4~25cmで、初め半球形で後に饅頭型から開き平らとなり、中央部がくぼむ。表面はべとつ灰褐色で、白色のつぼの破片が多数点在する。ひだは白色で離生する。傘の柄は5~35cmで太さ6~30mmで、白色である。上位につぼがあり、根もとは膨らむ。夏から秋に、針葉樹薬用樹林に発生する。分布は、北半球温帯以北およびアフリカである。ベニテングタケよりも毒性が強いが、特殊な処理で食用にする地方もある。古くからハエトリに用いられるので、ハエトリタケともよばれる。赤崎で確認。

コテングタケモドキ

Amanita pseudoporphyria Hongo

■ テングタケ科 / テングタケ属 / コテングタケモドキ

傘の直径は3~11cmで、半球形からほとんど後に平らとなり、最後には中央部がくぼむ。表面はべとつき、時にはつぼの残片が着く。色は灰色から褐灰色である。肉の色は白色で、傘の中央部は厚い。ひだは離生し、白色である。傘の柄は5~12cmで太さ6~18mm、根もとは膨らむ。表面は白色で、中味は充実する。つぼは柄の上位にある。夏から秋に、広葉樹林やアカマツ林に発生する。有毒らしい。日本では、本州以南に分布する。大耳浜で確認。

カバイロコナテングタケ

Amanita rufoferruginea Hongo

■ テングタケ科 / テングタケ属 / カバイロコナテングタケ

傘の直径は5~9cm、饅頭型から平らに開く。表面は明るい帯オレンジ褐色の粉に覆われる。触ると粉が手に付く。ひだは白い。傘の柄は9~12cmで、上位に落ちやすいツバが付く。夏から秋に、木の下に発生する。関東以西から中国に分布する。須江赤崎で確認。(写真 p.2)

へビキノコモドキ

Amanita spissacea Imai

■ テングタケ科 / テングタケ属 / へビキノコモドキ

傘の直径は、4~12.5cm、饅頭型から平らに開き、皿形となる。表面は帯褐灰色から暗灰褐色。傘が開くとひび割れ模様となる。肉は白色で、ひだは離生状で白色。傘の柄は5~15cmで太さ8~15cmで、根もととは球根状に膨らむ。つばは、柄の上位にあり灰白色で縁は黒い。夏から秋にアカマツやシイノキ林の地上に発生する。分布は、日本、韓国、中国である。大耳浜と須江赤崎で確認。

シロオニタケ

Amanita virgineoides Bas

■ テングタケ科 / テングタケ属 / シロオニタケ

傘の直径は9~20cmで、饅頭型から平らとなり、縁につばが残る。表面は白色で、さらにつばの残片を付けるが落ちやすい。肉は白色で、乾くと臭う。ひだは離生し、白色からクリーム色である。傘の柄は12~22cmで太さは1.5cm~2.5cmで、下方は膨らみ太さ3~5cmで白色である。つばは大型で、傘が開くとほとんど残らない。夏から秋にシイノキ林やマツ林に発生する。分布は日本である。大耳浜で確認。(写真 p.2, 3)



オキナタケ科 (BOLBITIACEAE)

ネナゴコガサタケ

Conocybe antipus (Lasch : Fr.) Fayod

■ オキナタケ科 / オキナタケ属 / ネナゴコガサタケ

傘の直径は1.5~3.5cmで、円錐形や饅頭型から中央部が膨らんだ平らに開く。表面はつるつるで、褐色から濃い黄土色。ひだは直生し、暗いシナモン色である。傘の柄は5~7cmで太さは2~4mm、根元が膨らむが細くなって地中深くはいり、中空である。夏から秋に、ゴミ捨て場や畑に群生または単生する。分布は日本、北米、欧州。紀伊大島では大森山で確認。

ハタケコガサタケ

Conocybe fragilis (Peck) Sing.

■ オキナタケ科 / オキナタケ属 / ハタケコガサタケ

傘の直径は0.6mmから2cmで、鐘型から円錐形で茶色い赤ワイン色。肉は薄くてもろく茶色の赤ワイン色。ひだは上向直生し、黄土色である。傘の柄は傘より色うすく2~6cmで太さ1~2mm、根元はやや膨らむことがあり、中空である。初夏に、ムギ畑、庭園、路傍に群生する。分布は日本、インド、欧州、北米である。榎野崎で確認。



イグチ科 (BOLETACEAE)

ヌメリコウジタケ

Aureoboletus thibetanus (Pat.) Hongo & Nagasawa

■ イグチ科 / ヌメリコウジタケ属 / ヌメリコウジタケ

傘の直径は2.5~7cmで、最初饅頭型で平らに開く。表面はねばねばで褐色で次第に淡くなる。肉はソフトで酸味があるという。傘の柄は5~8cmで太さは0.6~1.5cmで、中空ではない。色は灰紅色。夏から秋に広葉樹やマツ林に群生、単生し、食べられると言う。分布は本州や中国南西部、東南アジアからパプアニューギニアである。紀伊大島では須江赤崎で確認。

ツブエノウラベニイグチ

Boletus granulopunctatus Hongo

■ イグチ科 / ヤマドリタケ属 / ツブエノウラベニイグチ

傘の直径は2~7cm、半球形から平らな饅頭型で、色はピンク色から灰黄色、湿るとややネバネバする。肉は黄色だが青くなることもある。傘の柄は2~5cmで太さは0.6から1.5cmで、表面は黄色に細かく赤い斑点が入る。夏から秋にマツ林やシイノキ林に単生または群生する。分布は日本の滋賀と鳥取県である。この種はヤマドリタケ属では特殊という。大耳浜で確認。(写真 p.3)

キニガイグチ

Tylopilus ballouii (Peck) Sing.

■ イグチ科 / ニガイグチ属 / キニガイグチ

傘の直径は2.5cmから10cm、饅頭型から平らに開き、縁は波立つ。傘の表面は黄褐色からオリーブ色、湿るとややネバネバする。肉は厚くて堅くほとんど白色だが、空気に触れるとやや色が変わる。苦みはないらしい。傘の柄は3~7.5cmで太さは0.5cmから3cmで、中味は充実している。夏から初夏にかけてアカマツ林やシイノキ林などの地上に発生し、群生することが多い。食用とされる。関東以西、中国江南、東南アジア、北米に分布する。大耳浜と須江赤崎で確認。(写真 p.3)

モエギアミアシイグチ

Tylopilus nigerrimus (Heim) Hongo & Endo

■ イグチ科 / ニガイグチ属 / モエギアミアシイグチ

傘の直径は6~14cmで、饅頭型または平らに開く。傘の表面はうすオリーブ色からほぼ黒色で、わずかに毛がある。肉は厚みがあり、堅くて灰色からうす黄緑を帯びるが、空気に触れると黒味がかかる。傘の柄は5~12cmで太さは1~3cmで、根元はやや細くなり、うす黄緑または灰黄色を帯びる。夏から秋にかけてシイノキ林やアカマツを混交する広葉樹林の地上に単生または群生する。有毒で食べると錯乱する。西日本のほか、ニューギニア、シンガポール、ボルネオに分布する。紀伊大島では大耳浜で確認。

クロニガイグチ

Tylopilus nigropurpureus (Corner) Hongo

■ イグチ科 / ニガイグチ属 / クロニガイグチ

傘の直径は3~8cmで、半球形から平らに開き、表面は黒紫または黒褐色を帯び、ピロードのような触感である。肉質は堅くて灰白色、空気に触れさせると灰赤となり黒となる。苦みはないらしい。傘の柄は3~7cmで太さは0.5~1.5cmで、傘と同色である。夏から秋にかけてシイノキ林またはアカマツ林に分布する。西日本以外に、シンガポールやマレーシアおよび韓国に分布する。大耳浜にて確認。

ミドリニガイグチ

Tylopilus virens (Chiu) Hongo

■イグチ科 / ニガイグチ属 / ミドリニガイグチ

傘の直径は4.5cmから6cm、饅頭型またはほとんど平らに開く。表面はウグイス色で多少毛があり、湿るとやや粘つく。肉は黄色を帯び、空気に触れさせても変色しない。傘の柄は8~9cmで太さは1cmくらいで、上ほど細い。表面はうす黄色である。夏から秋にかけてアカマツやシノキ林の地上に単生または群生する。本州以南に分布し、韓国、中国、ポルネオにもある。大耳浜と須江赤崎で確認。

イロガワリキヒダタケ

Phylloporus bellus (Mass.) Corner var. *cyanescens* Corner

■イグチ科 / キヒダタケ属 / イロガワリキヒダタケ

傘の直径は2~6cmで饅頭型から平らに開き、逆円錐となる。表面は褐色、黄褐色で傷むと褐色が濃くなる。肉質は初めは白っぽい、やがて青くなる。ひだは傘の柄に長く垂生し、初め黄色く後に褐色が強くなる。傘の柄は3~7cmで太さ0.5~1cm、下の方がピロ~ド状となる。関東以西、東南アジア、ニューギニアに分布する。大耳浜で確認。

ウツロイグチ

Xanthoconium affine (Peck) Sing.

■イグチ科 / ウツロイグチ属 / ウツロイグチ

傘の直径は3~8cmで、饅頭型から後に平らとなる。傘の表面はココア色で後に褐色味が増す。肉は白色で虫食い跡はオリーブ色である。傘の柄は5~12cmで太さ0.8~1.2cmで、表面はピロード状、両端はほぼ白色でその他は褐色である。夏から秋にアカマツ林、広葉樹林の地上に単生または群生する。本州、北米東部およびアフリカのマダガスカルに分布する。紀伊大島では大耳浜で確認。(写真 p.3)



ヒトヨタケ科 (COPRINACEAE)

キララタケ

Coprinus micaceus (Bull. : Fr.) Fr.

■ヒトヨタケ科 / ヒトヨタケ属 / キララタケ

傘の直径は1~4cm、卵形から円錐となり、さらに縁が反り返る。表面はうす黄褐色で最初は雲母状の粉に覆われるが、のちに平滑となる。ひだは白い、のちに黒くなり液化する。傘の柄は3~8cmで太さ2~4mmで白色、中空である。夏から秋に広葉樹の切り株とか埋もれ木に束生または群生する。幼菌は食用とされる。世界に分布する。紀伊大島では大森山で確認。

イタチタケ

Psathyrella candolliana (Fr. : Fr.) Maire

■ヒトヨタケ科 / ナヨタケ属 / イタチタケ

傘の直径は3~7cmで鐘型から平らに開き、表面はうす黄色から褐色となる。肉質は薄くてもろい。ひだは白色から褐色となる。傘の柄は4~8cmで太さは4~8mm、中空で白色である。夏から秋に広葉樹の切り株や枯れた幹、その周辺の地上に群生する。食用となり、世界に分布する。紀伊大島では里利山で確認。

ムジナタケ

Psathyrella velutina (Pers.) Sing.

■ ヒトヨタケ科 / ナヨタケ属 / ムジナタケ

傘の直径は3~7cm、肉質で表面は褐色で、縁は繊維毛で縁取られる。ひだは暗紫褐色で、黒い斑点がある。傘の柄は3~10cmで太さは3~10mmで表面は傘と同じ繊維毛で覆われる。つばは不完全。夏から秋に林内、草地、路傍に群生する。食用となり、北半球に分布する。雷公神社で確認。



フウセンタケ科 (CORTINARIACEAE)

アブラシメジ

Cortinarius elatior Fr.

■ フウセンタケ科 / フウセンタケ属 / アブラシメジ

傘の直径は5~10cmで、鐘型からなか高の平らに開き、表面は褐色で粘液が著しいので、ヌルリンポウと言われるときがある。肉は白から褐色を帯びる。ひだは直生して、シナモン褐色である。傘の柄は5~8cmで太さ1~1.5cm、初めは粘液に包まれる。秋頃に針葉樹林の地上に発生し、食用となるらしい。分布は北半球温帯より北である。紀伊大島では、大森山と須江赤崎で確認した。

カワムラフウセンタケ

Cortinarius purpurascens (Fr.) Fr.

■ フウセンタケ科 / フウセンタケ属 / カワムラフウセンタケ

傘の直径は3~8cmで饅頭型から平らに開き、表面は湿るとぬるぬるである。フウセンタケとも言われる。傘の中央は褐色で端の方は紫である。肉はうす紫となる。ひだは上生し、褐色となるが傷を付けると紫となる。傘の柄は3~7cmで太さは8~13mm、根元が膨らみ、うす紫である。夏から秋に林内に発生する。食べられるらしい。分布は北半球温帯以北である。紀伊大島では赤崎と大森山で確認。

ウスムラサキフウセンタケ

Cortinarius subalboviolaceus Hongo

■ フウセンタケ科 / フウセンタケ属 / ウスムラサキフウセンタケ

傘の直径は1.5~4.5cmで饅頭型からやや中が高い平らに開く。表面は最初うす紫だが白色となり、湿るとやや粘つく。肉はうす紫。ひだは上生または湾状直生、うす紫から褐色となる。傘の柄は3~7cmで太さは3~7mmで根元が膨らむ。初夏にシイノキなどの下に群生する。分布は西日本である。大森山で確認。

ニセアブラシメジ

Cortinarius tenuipes (Hongo) Hongo

■ フウセンタケ科 / フウセンタケ属 / ニセアブラシメジ

傘の直径は4~8cmで、饅頭型からややなか高の平らに開き、表面は黄土色で湿ると粘つく。肉は白色である。ひだは直生または上生して黄土色である。傘の柄は6~10cmで太さ7~11cmで白色から粘土色となる。秋に広葉樹林やアカマツ林の地上に群生する。食用らしい。本州と九州に分布する。大森山で確認。

アカササタケ

Dermocybe phoenicea (Bull.) Moser in Gams

■フウセンタケ科 / ササタケ属 / アカササタケ

傘の直径は3~6cmで饅頭型からほとんど平らに開き、表面は黄土色だが多少赤みを帯びる。肉は薄くて赤みがかった黄土色である。ひだは直生で最初赤くて褐色となる。傘の柄は3~6cmで太さは4~8mmである。夏から秋に林内の地上に群生または単生する。日本、欧州、北米に分布する。大森山で確認。

オオキヌハダトヤマタケ

Inocybe fastigiata (Schaeff.) Quél.

■フウセンタケ科 / アセタケ属 / オオキヌハダトヤマタケ

傘の直径は2~6.5cmで円錐形から周辺が平らとなり、縁が反り返るが中央は飛び出したままである。表面は黄土色で、中央は褐色。肉は白色で、ひだは上生または離生し黄白色からオリーブ褐色となる。傘の柄は3.5~8cmで太さ3~9mmで白色である。夏から秋に林内の地上に発生する。有毒らしい。世界に分布する。赤崎にて確認。

タマアセタケ

Inocybe sphaerospora Kobayasi

■フウセンタケ科 / アセタケ属 / タマアセタケ

傘の直径は3~8cmで饅頭型から平らに開く。表面はうす黄色で中央はうす黄土色である。ひだは湾生または上生、白色から汚色となる。傘の柄は2~4cmで太さは3~5mmで、色はうす黄色から黄土色である。秋にブナ科の下に発生する。分布は日本、シンガポール、パプアニューギニアである。大森山で確認。



チャヒラタケ科 (CREPIDOTACEAE)

チャヒラタケ

Crepidotus mollis (Schaeff. : Fr.) Kummer

■チャヒラタケ科 / チャヒラタケ属 / チャヒラタケ

傘の直径は1~6cmで、時に褐色の細かい毛を持つ。表面は白色から黄土色である。里利山で確認。



ヌメリガサ科 (HYGROPHORACEAE)

ベニヒガサ

Hygrocybe cantharellus (Schw.) Murrill

■ヌメリガサ科 / アカヤマタケ属 / ベニヒガサ

傘の直径は1~3.5cmで、饅頭型で中央がややくぼむ。表面は平滑で赤色で細かい鱗片に覆われる。ひだはオレンジ色で柄に長く垂生する。傘の柄は4~9cmで太さ1.5~4mm、朱色である。夏から秋に林内の地上に発生する。北半球に分布する。紀伊大島内では、檜野崎と大耳浜で確認した。(写真 p.4)

ベニヤマタケ

Hygrocybe coccinea (Schaeff. : Fr.) Kummer

■ ヌメリガサ科 / アカヤマタケ属 / ベニヤマタケ

傘の直径は2~5cmで表面は粘つかず、血の色から黄赤となる。ひだはオレンジ色で、直生から上生する。傘の柄は2.5~6cmで太さ5~13mm、オレンジ色である。春から秋に草地や林内に群生する。食べられるらしい。北半球や豪州に分布する。大森山で確認。

アキヤマタケ

Hygrocybe flavescens (Kauffm.) Sing.

■ ヌメリガサ科 / アカヤマタケ属 / アキヤマタケ

傘の直径は2~4.5cmで、初めは饅頭型でのちにほとんど平らに開き、その後中央がややくぼむ。表面はオレンジ色からレモン色で、湿ると粘る。ひだは上生してうす黄色である。傘の柄は2.5~5cmで太さ4~9mm、中空でオレンジ色からレモン色で粘つかない。秋に林や草地に群生する。日本や北米、欧州に分布する。里利山で確認。(写真 p.4)

アカヌマベニタケ

Hygrocybe miniata (Fr.) Kummer

■ ヌメリガサ科 / アカヤマタケ属 / アカヌマベニタケ

傘の直径は1~3cmで、平たい饅頭型、時に中央がくぼむ。表面は朱色で粘つかない。ひだはオレンジ色で、柄に沿って長く垂下する。傘の柄は4~9cmで太さ1.5~4mm、朱色である。夏から秋に林内の地上に発生する。全世界に分布する。大森山で確認。



ヒラタケ科 (PLEUROTACEAE)

ウスヒラタケ

Pleurotus pulmonarius (Fr.) Quél.

■ ヒラタケ科 / ヒラタケ属 / ウスヒラタケ

傘の直径は2~8cmで、初めはうす灰色か褐色でのちに白くなる。傘の柄はないか0.5~1.5cm、幅は4~7mm。肉はやや穀物臭があり美味しい。ひだは白い。春から秋に広葉樹の枯れ木や倒木、落下枝に群生または単生する結果、白腐れする。分布は欧州、北米で、日本の詳細は不明である。大耳浜と大森山で確認。極めて近い種にヒラタケがあり、傘が黒いので区別できる。なお、ヒラタケは「シメジ」として販売される。(写真 p.4, 5)



イッポンシメジ科 (RHODOPHYLLACEAE)

トガリウラベニタケ

Rhodophyllus acutoconicus Hongo

■ イッポンシメジ科 / イッポンシメジ属 / トガリウラベニタケ

傘の直径は2~4.5cmで、円錐形または鐘型、先端に乳頭状突起を持つ。表面は褐色を帯びる。肉は薄くて傘と同じ色である。ひだは上生かまたはほぼ離生する。傘の柄は5~10cmで太さ3~4.5mmで中空である。夏から秋に林内の地上に群生または単生する。分布は、滋賀と京都、埼玉およびニューギニアである。大耳浜と里利山で確認。

フタツミウラベニタケ

Rhodophyllus bisporus Hongo

■ イッポンシメジ科 / イッポンシメジ属 / フタツミウラベニタケ

傘の直径は8~17cmで、饅頭型から平らに開き、表面は肌色で中央部は褐色を帯びる。ひだは直生から上生で、初め白色で肉色となる。傘の柄は1.5~2cmで太さ1~2mmで、傘よりもうすい色で、根元は白い菌糸で覆われる。春から秋に林内の腐葉土や腐木に群生または単生する。滋賀県に分布する。紀伊大島では須江赤崎で確認。

シロイボカサタケ

Rhodophyllus murraini (Berk. & Curt.) Sing. f. *albus* (Hiroe) Hongo

■ イッポンシメジ科 / イッポンシメジ属 / シロイボカサタケ

傘の直径は1~6cm、円錐形で中央に鉛筆心のような突起がある。全体は黄白色で、ひだは直生から上生する。傘の柄は3~10cmで太さ2~4mmである。夏から秋に林内の地上部に群生または単生する。日本に分布する。紀伊大島では須江赤崎で確認。近縁のキイボカサタケは全体が黄色である。

ウスキモミウラモドキ

Rhodophyllus omiensis Hongo

■ イッポンシメジ科 / イッポンシメジ属 / ウスキモミウラモドキ

傘の直径は2~7cmで、やや尖った饅頭型でほとんど平らに開く。表面は灰色を帯びた蜜色。肉は薄くてもろい。ひだは離生する。傘の柄は5~10cmで太さは3~6mmで中空、色が傘よりもうすい。秋頃に広葉樹や竹林で落葉に富む地上に群生または単生する。分布は滋賀と熊本。須江赤崎と里利山で確認。



ベニタケ科 (RUSSULACEAE)

アシボソチチタケ

Lactarius gracilis Hongo

■ ベニタケ科 / チチタケ属 / アシボソチチタケ

傘の直径は1~2.5cmで、円錐形から平らに開き、ついには漏斗形になるが、中心には小突起が常にある。表面は乾燥して褐色で、縁には毛がある。肉は薄くてうす茶色、白い乳液があり、辛くないらしい。ひだは直生状垂生で、傷つけるとシミが出る。傘の柄は2~7cmで太さ2~6mm、中空で表面は赤茶色である。初夏にシイノキ林などのコケや落葉に群生または単生する。本州から九州に分布する。大森山で確認。

クロチチタケ

Lactarius lignyotus Fr.

■ ベニタケ科 / チチタケ属 / クロチチタケ

傘の直径は2~7cmで中心が飛び出た饅頭型で後に平らに開き、中央がくぼむが中丘がある。表面はピロード状で黒色である。肉は白色であるが、切ると淡紅色に変化する。苦みがあるらしい。傘の柄は5~12cmで太さ4~10mm、表面はピロード状。傘とほぼ同色である。夏から秋に北方の針葉樹林のコケの多い地上に発生する。食べられるらしい。日本や台湾、中国大陸、シベリア、欧州、北米に分布する。赤崎にて確認。

ムラサキカスリタケ

Russula amoena Quél.

■ ベニタケ科 / ベニタケ属 / ムラサキカスリタケ

傘の直径は4~6cmで饅頭型から平らに開き中央がくぼみ、漏斗形となる。表面は湿ると粘つき、ワイン色である。肉は白色でもろい。ひだは離生し、白色だが縁はややワイン色である。夏から秋に、林内地上に発生する。日本と欧州に分布する。赤崎にて確認。

カワリハツ

Russula cyanoxantha (Schaeff.) Fr.

■ ベニタケ科 / ベニタケ属 / カワリハツ

傘の直径は6~10cmで、饅頭形から平らとなり、さらに漏斗形に中央がくぼむ。表面は粘つき、色は七変化である。ひだは白色である。傘の柄は4~5cmで太さ1.3~2cmで白色である。夏から秋に林内地上に生える。食べられるらしい。北半球全体と豪州に分布する。大森山で確認。

クロハツモドキ

Russula densifolia (Secr.) Gill.

■ ベニタケ科 / ベニタケ属 / クロハツモドキ

傘の直径は6~10cmで、饅頭形だが中央がくぼみ、後に漏斗形となる。表面は白色であるが、黒褐色となり、湿ると粘つく。肉は白色であるが傷つけると赤黒くなる。ひだは卵白色、傘の柄は3~5cmで太さ1~2cmで、すべすべして白色で後に黒くなる。夏から秋に林内地上に群生する。食べられるらしく、辛いとの噂である。北半球に分布する。大森山で確認。(写真 p.5)

ドクベニタケ

Russula emetica (Schaeff. : Fr.) S. F. Gray

■ ベニタケ科 / ベニタケ属 / ドクベニタケ

傘の直径は3~10cmで、半球形から饅頭形をへて平らに開き、中央がくぼむ。表面は湿ると粘つき、最初は紅色だがやがて白くなる。肉は白色でもろく、大変辛いらしい。ひだは直生または離生し、白色である。傘の柄は2.5~7cmで太さ7~15mm、白色でもろい。夏から秋に林内に群生または単生する。中毒するので注意する。分布は北半球と豪州である。須江赤崎で確認した。

クロハツ

Russula nigricans (Bull.) Fr.

■ ベニタケ科 / ベニタケ属 / クロハツ

傘の直径は8~15cm、中央のくぼんだ饅頭形から浅い漏斗形となる。表面は汚白色だがついには黒色となる。肉は白くて堅いが、傷を付けると赤黒くなる。ひだは白いがやがて黒くなる。傘の柄は3~8cmで太さ1~3cm、堅くて色は傘と同じである。夏から秋に林内地上に発生する。北半球に分布する。大森山で確認。

ニセクロハツ

Russula subnigricans Hongo

■ ベニタケ科 / ベニタケ属 / ニセクロハツ

傘の直径は5~11cmで饅頭形から後にながくぼんだ平らに開き、漏斗形となる。表面は乾燥してピロード状、褐色である。肉は厚くて強く、白色である。切ると赤くなるが、黒くはならない。食べると死ぬらしい。ひだは直生または垂生し、厚くてもろい。夏から秋に、シイノキ林内に群生または単生する。分布は日本。須江赤崎で確認。

ケショウハツ

Russula violeipes Quél.

■ ペニタケ科 / ペニタケ属 / ケショウハツ

傘の直径は4~9cmで、饅頭形から平らに開き中がくぼむ。傘の表面は湿ると粘つき、最初は黄色だがやがて桃色となる。肉は白色で堅く、果実臭がする。ひだは離生してクリーム色である。傘の柄は4~10cmで太さは1.5~2.5mm、根元は細くなり、やや白色である。夏から秋にかけて林内に発生する。分布は日本と欧州である。大森山で確認した。



スエヒロタケ科 (SCHIZOPHYLLACEAE)

スエヒロタケ

Schizophyllum commune Fr. : Fr.

■ スエヒロタケ科 / スエヒロタケ属 / スエヒロタケ

傘の直径は1~3cmで、傘の柄はなく木材などの基物に付着する、形状は扇形または円形で、時には手のように裂けることもある。表面には毛が密に生えて白色または灰色となる。ひだも同色だが紫色を帯びることもある。肉は革質で乾燥すると縮み、吸水すると復元する。春から秋に枯れ木と杭、木材にきわめて普通に発生する。世界に分布する。大耳浜、大森山、里利山、須江赤崎などで確認。(写真 p.5)



オニイグチ科 (STROBILOMYCETACEAE)

アシナガイグチ

Boletellus elatus Nagasawa

■ スオニイグチ科 / キクバナイグチ属 / アシナガイグチ

傘の直径は3~9cmで半球形から饅頭形、まれに平らに開くこともある。表面は乾燥しているが、湿るとやや粘つく。赤褐色で、最初は綿毛が付くが後になくなる。肉はうす黄色で薄い。切ると赤変することもある。傘の柄は9~23cmで太さは0.6~1.2cm、基部では太さが4cmになる。色は傘と同色である。夏から秋にアカマツやシイノキ林に地上に単生または群生する。分布は本州や九州である。大耳浜で確認した。

キクバナイグチ

Boletellus emodensis (Berk.) Sing.

■ オニイグチ科 / キクバナイグチ属 / キクバナイグチ

傘の直径は5~10cmで饅頭形からつぶれた饅頭形。表面は乾燥して、綿毛のような物で覆われる。濃いワイン色で、後に傘に亀裂が入り、パインアップルの果実ようになる。肉は厚くてうす黄色で、切ると青くなる。傘の柄は7~10cmで太さは1~1.5cm、堅くてよく折れ、中実である。夏から秋に林内の地上または木の根元の樹皮に生える。本州、中国、インド、東南アジア、ニューギニアに分布する。大耳浜で確認。

コオニイグチ

Strobilomyces seminudus Hongo

■ オニイグチ科 / オニイグチ属 / コオニイグチ

傘の直径は3~7cmで、半球形から後に饅頭形となり、表面は綿毛か鱗片に覆われ、灰褐色である。肉は白色で、切ると赤黒くなる。管孔は直生し、灰色である。傘の柄は4~15cmで太さは6~8mmである。夏から秋に、シイノキ林などに単生または群生する。分布は、関東以西、マレーシア、アフリカである。大耳浜で確認。(写真 p.5)



モエギタケ科 (STROPHARIACEAE)

センボンイチメガサ

Kuehneromyces mutabilis (Schaeff. : Fr.) Sing. & A. H. Smith

■ モエギタケ科 / センボンイチメガサ属 / センボンイチメガサ

傘の直径は1.5~3cmで、半球形から平らに開く。吸水性がとてよく、表面は湿ると粘つく。褐色である。肉の色は表面よりうすい。ひだは傘の柄に直生または垂生である。傘の柄は4~7cmで太さ2.5~3.5cmで中空である。春から秋に林内の枯れた幹や刈り株に束生または群生する。食べられるらしい。世界に分布する。須江赤崎で確認した。(写真 p.6)



キシメジ科 (TRICHOLOMATACEAE)

ヤグラタケ

Asterophora lycoperdoides (Bull.) Ditm. : Fr.

■ キシメジ科 / ヤグラタケ属 / ヤグラタケ

傘の直径は4~22cmで、表面は白色後に粘土褐色の粉の塊となる。ひだは厚く白色。傘の柄は0.5~6cmで太さは1.5~4mm、白色である。夏から秋にクロハツなどの老キノコに寄生する。北半球に分布する。大森山で確認。(写真 p.6)

ヒメキシメジ

Callistosporium luteoolivaceum (Berk. & Curt.) Sing.

■ キシメジ科 / ヒメキシメジ属 / ヒメキシメジ

傘の直径は1~2cmで、饅頭形から平らに開き、やや中央がやがてくぼむ。表面は平滑で水をよく吸い、黄土色である。肉はうすくて傘と同色である。ひだは直生または上生して黄色である。傘の柄は2~3cmで太さ2~3mm、傘と同色で中空である。夏から秋に針葉樹林内の腐食や古い切り株に発生する。本州以南、新大陸、欧州に分布する。大耳浜で確認。

シロヒメカヤタケ

Clitocybe candicans (Pers. : Fr.) Kummer

■ キシメジ科 / カヤタケ属 / シロヒメカヤタケ

傘の直径は2~4cmで、開くと平らとなり中央が多少へこみ、白色である。表面は粉をふき乾くと艶がでる。ひだは最初に直生しあと垂生する。傘の柄は1.5-2.5cmで根元は短い毛に覆われる。秋に落葉樹林内の地上に群生する。分布は北半球温帯以北である。有毒であるらしい。須江赤崎にて確認。(写真 p.6)

エセオリミキ

Collybia butyracea (Bull. : Fr.) Quél.

■ キシメジ科 / モリノカレバタケ属 / エセオリミキ

傘の直径は3~6cmで、饅頭形から平らに開く。表面はすべすべして水を吸う。湿ると赤褐色で、乾くと灰白色である。肉はうす褐色で後に白色となる。ひだは上生または離生で白色である。傘の柄は2~8cmで太さ4~8mm、基部は膨らんで曲がる。夏から秋に林内に発生する。食べられるらしい。北半球に分布する。大森山で確認。(写真 p.6)

モリノカレバタケ

Collybia dryophila (Bull : Fr.) Kummer

■キシメジ科 / モリノカレバタケ属 / モリノカレバタケ

傘の直径は1~4cmで、饅頭形から平らに開き、縁が反り返る。表面は平滑で黄土色、乾くと色がうすくなる。ひだは上生または離生でうすいクリーム色である。傘の柄は2.5~6cmで太さ1.5~3mm、中空で傘と同色である。春から秋に林内の腐植土や落葉土に群生する。ツツジの仲間の下に多いという。食べられるらしい。全世界に分布する。大森山で確認。

ワサビカレバタケ

Collybia peronata (Bolt. : Fr.) Kummer

■キシメジ科 / モリノカレバタケ属 / ワサビカレバタケ

傘の直径は1.5~3.5cmで、饅頭形からほぼ平らに開き、中央部がへこむ。表面は鞣し皮色。肉は薄くて、革質である。傘の柄は2.5~5cmで太さ2~3mm、肌色から褐色で、中実。下半分はうす黄色の密毛に覆われる。夏から秋に、林内地上に群生する。欧州に分布する。紀伊大島ではナギの谷で確認。

ダイダイガサ

Cryptotrampa asprata (Berk.) Redhead & Ginns

■キシメジ科 / ダイダイガサ属 / ダイダイガサ

傘の直径は1~3cmで、半球形から饅頭形、そののち平らとなる。表面は黄オレンジ色地に綿クズ上のオレンジ色鱗片を敷き詰めている。縁はひだよりも出る。肉は、白色。ひだは上生または直生し白色である。傘の柄は1.5~5cmで太さ2~4mm、中実、表面はうすい黄色。夏から秋に広葉樹林内の倒木、落ちた枝に発生する。世界の熱帯を中心に分布し、日本では関東以西と小笠原にある。紀伊大島では一つ松で確認。

ウラムラサキ

Laccaria amethystea (Bull.) Murr.

■キシメジ科 / キツネタケ属 / ウラムラサキ

傘の直径は1.5~3cmで、饅頭形からほぼ平らに開き、全体が最初紫色で後に黄褐色となる。表面はすべすべだが後に細かく割れて鱗片状となる。ひだは厚い。傘の柄は3~7cmで太さが2~5mmである。夏から秋にかけて林内の地上に群生する。食べられるらしい。北半球温帯以北に分布する。大森山で確認。

カレバキツネタケ

Laccaria vinaceoavellanea Hongo

■キシメジ科 / キツネタケ属 / カレバキツネタケ

傘の直径は4~10cmで、中央がくぼむ。くすんだ肉色である。ひだは直生状垂生である。傘の柄は5~8cmで太さが6~8mm。夏から秋に林内に発生する。日本、韓国、ニューギニアに分布する。大森山で確認。

シイタケ

Lentinula edodes (Berk.) Sing.

■キシメジ科 / マツオウジ属 / シイタケ

地方名 シイタケ (大島、須江、檜野)

傘の直径は4~10cmまたはそれ以上で、初めは饅頭形で後に開いてほとんど平らとなる。表面はやや湿り、茶褐色で特有のひび割れ模様がある。とくに傘の縁に綿毛がある。肉は緻密で弾力があり、白色である。乾燥すると特有な香りがする。ひだは湾生または上生子、白色で乾くとシミを生じる。傘の柄は3~5cmで太さは1~2cm、しばしば一方に曲がり、強い。春や秋にシイノキやまれに針葉樹の倒木や切り株、落ちた枝に単生または群生する。古くからホダ木を使ったシイタケ栽培も行われてきた。グアニン酸という独特なうま味成分を持つ。分布は、東アジア、東南アジア、ニュージーランド。紀伊大島では、栽培も行われるが、それ以外にも野生のシイタケと栽培シイタケからのエスケープが混じっているようだ。須江赤崎、里利山で確認。(写真 p.7)

アシグロホウライタケ

Marasmiellus nigripes (Schw.) Sing.

■キシメジ科 / シロホウライタケ属 / アシグロホウライタケ

傘の直径は3~15cm、開けば平らとなり、のちにくぼむ。表面は白色で粉をふく。ひだは直生し、白色である。傘の柄は1~2cmで太さ0.5~1mm、上部は白いが下部は黒い。夏から秋に枯れた植物に発生する。新大陸、アジア、アフリカに分布する。紀伊大島では大森山で確認。

クヌギタケ

Mycena galericulata (Scop. Fr.) S. F. Gray

■キシメジ科 / クヌギタケ属 / クヌギタケ

傘の直径は2~5cm、円錐鐘形から中高の平らに開く。灰褐色で真ん中は濃い。ひだは直生し、灰白色のうちす紅色となる。傘の柄は5~13cmで太さ2~6mm、色は傘と同じ。夏から秋に広葉樹の朽ち木、切り株に群生または束生する。食用である。世界に分布する。里利山で確認。(写真 p.7)

サクラタケ

Mycena pura (Pers. : Fr.) Kummer

■キシメジ科 / クヌギタケ属 / サクラタケ

傘の直径は2~5cm、鐘形から平らに開く。表面は平滑でバラ色、藤色など変化に富む。ひだも同様で、直生または上生する。傘の柄は5~8cmで太さ2~7mm、傘と同色で中空である。春から秋に林内の落ち葉に発生する。有毒である。世界に分布する。大森山で確認。(写真 p.7)

ヒメチシオタケ

Mycena sanguinolenta (Alb. & Schw. : Fr.) Kummer

■キシメジ科 / クヌギタケ属 / ヒメチシオタケ

傘の直径は5~13mmで円錐形から鐘形、赤褐色である。ひだは直生で、汚紅色。傘の柄は2.5~5cmで太さ0.5~1mm、根元に白毛がある。傷つけると赤い汁を出す。春から秋に林内落葉、落ちた枝に発生する。世界に分布する。大森山で確認した。

ヒダサカズキタケ

Omphalina epichysium (Pers. : Fr.) Quél.

■キシメジ科 / ヒダサカズキタケ属 / ヒダサカズキタケ

傘の直径は1~4cm、開けば中央はくぼんで漏斗型となり、縁は内に巻く。表面は灰褐色系で、乾けば淡くなる。ひだは灰白色で垂生、しばしば分枝する。傘の柄は15~40mmで灰褐色である。林内の腐木に生える。北半球に分布する。大森山で確認。

ヌメリツバタケ

Oudemansiella mucida (Schrad : Fr.) Hohnel

■ キシメジ科 / ツエタケ属 / ヌメリツバタケ

傘の直径は3~8cmで饅頭形からほぼ平らに開く。表面は白色で湿ると粘つく。ひだは白色で半透明、直生する。傘の柄は3~7cmで太さ3~7mm、中実。夏から秋に広葉樹のかれた幹に束生する。食べられるらしい。北半球温帯部に分布する。大森山で確認。
(写真 p.7)

スギエダタケ

Strobilurus ohshimae (Hongo & Matsda) Hongo

■ キシメジ科 / マツカサキノコ属 / スギエダタケ

傘の直径は1~5cmで饅頭形から平らに開き、すこし中低となる。表面には微毛があり白色またはネズミ色である。ひだは上生または離生で白色である。傘の柄は3~7cmで太さ1.5~4mmで、褐色オレンジ色、微毛がある。秋の終わりから初冬に杉林内の埋もれた枝から生える。食べられるらしい。本州から九州に分布する。大森山で確認。

キヒダマツシメジ

Tricholoma fulvum (DC. : Fr.) Sacc.

■ キシメジ科 / キシメジ属 / キヒダマツシメジ

傘は栗褐色で、ひたと傘の柄はうす黄色、傘の柄の上部はやや色がうすい。広葉樹林内に生える。赤崎で確認。

ヒダナシタケ目

APHYLLOPHORALES



アンズタケ科 (CANTHARELLACEAE)

アンズタケ

Cantharellus cibarius Fr.

■ アンズタケ科 / アンズタケ属 / アンズタケ

傘の直径は3~8cm、やや円形で縁は波状で浅く裂ける。卵黄色で表面は平滑である。肉はうす黄色で厚くて肉質である。ひだは脈状に連結する。傘の柄は偏り、短く中実する。アンズ臭があり美味しいらしい。秋に林内地上に孤生または群生する。世界に分布する。不明な点が多い科である。里利山で確認した。

ミキイロウスタケ

Cantharellus infundibuliformis (Scop.) Fr.

■ アンズタケ科 / アンズタケ属 / ミキイロウスタケ

傘の直径は2~5cm、漏斗形で中央部の窪みは柄の根元までつながる。表面は黄土色で縁は不規則に裂ける。ひだは脈状で灰黄色である。傘の柄は中空で太さ0.5cmである。秋に林内地上に群生または数個生える。食べられるらしい。日本、中国、欧州、北米に分布する。須江赤崎、里利山で確認。

クロラッパタケ

Craterellus cornucopeioides (L. : Fr.) Pers.

■ アンズタケ科 / クロラッパタケ属 / クロラッパタケ

傘の直径は1~6cmで、細長い漏斗形からラッパ形で薄くて柔らかく、縁が浅く裂ける。ネズミ色または灰褐色である。夏から秋に林内地上に孤生または数個生える。食べられるらしい。世界に分布する。里利山で確認。



コウヤクタケ科 (COTICIACEAE)

ウロコオクバタケ

Basidioradulum radula (Fr.) Nobles

■ コウヤクタケ科 / オクバタケ属 / ウロコオクバタケ

子実体は背着生で、ろう質である。初め丸くて白くのちに広がり黄褐色となる。肉はろう質で白色またはうす黄褐色である。枯れた幹に発生し、材の白腐れを起こす。日本、欧州、北米に分布する。須江赤崎、金山、里利山で確認した。(写真 p.8)

シロコメバタケ

Hyphoderma setigerum (Fr.) Donk

■ コウヤクタケ科 / ハイフォダーマ属 / シロコメバタケ

子実体は全背着生で薄くて膜状に広がる。全体は白からうす黄色である。日本の関東南部などで雑木林の林床に普通である。里利山で確認。(写真 p.8)



シロソウメンタケ科 (CLAVARIACEAE)

ムラサキホウキタケ

Clavaria zollingerii Lév. emend. v. Over.

■ シロソウメンタケ科 / シロソウメンタケ属 / ムラサキホウキタケ

高さが1.5~7.5cmで叢生、分枝することが多い。柄の太さは2~3mmですみれ色からうす紫色である。肉も同じ色でもろい。無味無臭らしい。秋に林内に群生する。世界に分布する。大森山で確認した。

ベニナギナタタケ

Clavulinopsis miyabeana (S. Ito) S. Ito

■ シロソウメンタケ科 / ナギナタタケ属 / ベニナギナタタケ

子実体は朱色で、高さ5~14cm、幅が3~10mmである。地上に生え、食べられるらしい。日本に分布する。大森山で確認。

シラウオタケ

Multiclavula mucida (Pers. : Fr.) Peterson

■ シロソウメンタケ科 / シラウオタケ属 / シラウオタケ

子実体は白色で以外に強く、高さ1~2cmで幅1mmたらずである。分枝しない。湿った朽ち木表面に群生する。緑藻類と共生するようである。世界に分布する。里利山で確認。



マンネンタケ科 (GANODERMATACEAE)

マンネンタケ

Ganoderam lucidum (Leyss. :Fr.) Karst.

■ マンネンタケ科 / マンネンタケ属 / マンネンタケ

傘は腎臓形またはハート形で柄を側生する。表面は茶褐色、ニス状で光沢がある。肉はコルク質でやや白いく、下半部はややシナモン色である。広葉樹の株に生える。北半球温帯部に生える。須江赤崎で確認。(写真 p.8)



ラッパタケ科 (GOMPHARIACEAE)

シロアンズタケ

Gomphus pallidus (Yasuda) Corner

■ ラッパタケ科 / ラッパタケ属 / シロアンズタケ

キノコはやや漏斗形で、時に裂ける。高さは約10cmで肉質、卵白色である。下面の子実層託は皺があり、白からのちにクリーム色となる。柄は偏在または側生し中実する。秋に林内地上に群生する。日本に分布する。大耳浜で確認した。



タバコウロコタケ科 (HYMENOGHAETACEAE)

オオタバコウロコタケ

Hymenochaete villosa (Lév.) Bres.

■ タバコウロコタケ科 / タバコウロコタケ属 / オオタバコウロコタケ

傘は半円形、大きさは7×3cmで厚さ1mm、革質だが柔らかい。上面は粗毛が密に生え、煙草色である。下面の子実層面は平滑だが粉っぽく、煙草色。シイノキなどを白腐れさせる。分布は九州、熱帯アジア、豪州などである。大森山と里利山で確認した。(写真 p.9)

ダイダイタケ

Inonotus xeranticus (Berk.) Imazeki

■ タバコウロコタケ科 / カウソタケ属 / ダイダイタケ

傘は半円形で、幅は3~10cm、厚さは2~5mmで、多数が重なる。表面は黄褐色でピロ〜ドのような密毛が生える。下面は黄色のちに褐色である。広葉樹の枯れ木や切り株に群生する。基質の白腐れを起こす。日本、台湾、ネパール、コーカサスに分布する。赤崎、里利山で確認。(写真 p.9)

サジタケ

Onnia scaura (Lloyd) Imaz.

■ タバコウロコタケ科 / ニセカイメンタケ属 / サジタケ

子実体は有柄側生または無柄で木質である。傘はハート形で、幅12cmあり厚さは根元では1cmである。表面は褐色で縁は黄色である。傘の上面は皺があり密毛が生える。下面は黄色でのちに褐色となる。広葉樹の切り株に生える。材の白腐れを起こす。本州以南で分布する。須江赤崎で確認。(写真 p.10)

アズマタケ

Onnia vallata (Berk.) Aoshima

■ タバコウロコタケ科 / ニセカイメンタケ属 / アズマタケ

子実体は直立する柄をもち、高さは3~10cmである。傘はやや円形中央がへこみ、直径3~13cmで厚さ0.3~1cmである。表面は褐色で密毛が生える。肉は木褐色で木質である。アカマツの根際の根系に発生し、白腐れを起こす。中部以南、中国、フィリピン、インドに分布する。里利山で確認。

ネンドタケ

Phellinus gilvus (Schw. : Fr.) Pat.

■ タバコウロコタケ科 / キコブタケ属 / ネンドタケ

子実体は1~3年生で、傘は半円形で重層する。幅は3~8cmで厚さは5~10mm。表面と裏面は褐色ある。肉は黄褐色で厚さ3~7mm粘土のような木質である。広葉樹の枯れ木や枝に発生し、材の白腐れを起こす。世界に分布する。赤崎、大耳浜および須江赤崎で確認。(写真 p.10)



シワタケ科 (MERULIACEAE)

カワシワタケ

Meruliopsis corium (Fr.) Ginns

■ シワタケ科 / シワタケ属 / カワシワタケ

子実体は背着生で互いに癒着して拡がり、縁が反転して白色の背面を見せる。革質だが柔軟で、肉の厚さは0.5mmである。広葉樹の落下枝に発生し、材の白腐れをおこす。分布は北半球温帯以北、豪州である。赤崎で確認。



タコウキン科 (POLYPORACEAE)

シクイタケ

Antrodiella gypsea (Yasuda) Hattori & Ryv.

■ タコウキン科 / シクイタケ属 / シクイタケ

子実体は半背着生で、海綿質、倒木では拡がるだけだが、立ち枯れ木では多数の傘を重ねる。傘は幅2cm、厚さは4mmである。傘の上面は灰白色、下面は汚白色である。枯れた杉に生えて、材の白腐れを起こす。紀伊大島では里利山で確認。(写真 p.10)

アラゲカワラタケ

Coriolus hirsutus (Wulf. : Fr.) Quél.

■ タコウキン科 / カワラタケ属 / アラゲカワラタケ

傘は半円形で、多数個が重層する。幅は2~7cmで厚さ2~8mmである。表面は著しい密毛で覆われ、白っぽい。肉は白く革質である。広葉樹の枯れ木に生え、全世界に分布する。大森山で確認。

センベイトケ

Coriolus strumosa (Fr.) Ryv.

■ タコウキン科 / カワラタケ属 / センベイトケ

傘は半円形で、幅10cmまで厚さは10mm以下である。上表面は黄土褐色でやや環紋がある。傘下面は紫っぽい褐色である。肉はうすい黄褐色である。広葉樹の枯れ木に生え、材の白腐れを起こす。群生または重生する。須江赤崎で確認。(写真 p.11)

カワラタケ

Coriolus versicolor (L. : Fr.) Quél.

■ タコウキン科 / カワラタケ属 / カワラタケ

傘は半円形で薄いが強い。幅は1~5cmで厚さ1~2mm、極めて多数個が重層して群生する。表面は黒、灰色、褐色で短毛が生える。肉は白色である。枯れ木に発生して材の白腐れを起こす。世界に普通に分布する。紀伊大島では赤崎、須江赤崎、ナギの谷、里利山で確認。(写真 p.11)

コフキサルノコシカケ

Elfringia applanta (Pers.) Karst.

■ タコウキン科 / コフキサルノコシカケ属 / コフキサルノコシカケ

地方名 サルノコシカケ (大島、須江、檜野)

年々生長し、子実体は50cmを越える。傘は半円形、厚さは10から20cm時には40cmにもなる。表面は堅く、灰褐色でしばしばココア粉をまぶしたようになる。肉はチョコ色から黄白色である。下面は黄白色である。広葉樹の心材に腐朽し、白腐れを起こす。倒木にも発生する。世界に分布する。里利山で確認。(写真 p.12)

オオスルメタケ

Fomitopsis rhodophaea (Lév.) Imaz.

■ タコウキン科 / ツガサルノコシカケ属 / オオスルメタケ

子実体は1~2年生で木質である。傘は半円形で幅が5~15cm、厚さ1cmである。表面は硬く、褐色系である。肉は材木色で堅い。シイノキ類の枯れ木に発生し、材の白腐れを起こす。四国、九州以南、東アジアの亜熱帯に分布する。須江赤崎で確認。

ブドウタケ

Fomitopsis vinosa (Berk.) Imaz.

■ タコウキン科 / ツガサルノコシカケ属 / ブドウタケ

一年生、傘は半円形で樹木に重なって生え、幅4~10cmで厚さ0.5~1cmである。表面は無毛で濃い葡萄色である。肉はコルク質で折れやすく、淡い葡萄色である。下面は葡萄色。マツの切り株に群生する。日本、東南アジア、アフリカ、新大陸に分布する。大森山で確認。

ヒロハノキカイガラタケ

Gloeophyllum subferrugineum (Berk.) Bond. & Sing.

■ タコウキン科 / キカイガラタケ属 / ヒロハノキカイガラタケ

傘の表面と肉は黄褐色である。本州以南のマツの倒木、丸太に発生する。南方系の種である。雷光神社で確認。

フルイタケ

Hexagonia tenuis (Hook.) Fr.

■ タコウキン科 / ヘキサゴニア属 / フルイタケ

傘は半円形で、幅5cm、厚さ2mmで大変うすい。全体がうす黄褐色。上面は紋模様があり、下面子実層は蜂の巣模様である。熱帯系で本州ではまれであり、小笠原と神奈川に産する。紀伊大島では里利山で確認。(写真 p.12)

ウチワタケ

Microporus flabeliformis (Fr.) Kuntze

■ タコウキン科 / ツヤウチワタケ属 / ウチワタケ

明瞭な柄があり、傘は半円形で革質、縁が裂ける。直径が2~10cmで厚さ1~3mmである。表面は褐色系で、灰色の密毛が生える。肉は革質で白い。シイノキなどの倒木や枯れ枝に群生し、材の白腐れを起こす。関東以南、熱帯アジアに分布する。赤崎、須江赤崎、大森山、里利山で確認。(写真 p.12)

アオゾメタケ

Oligoporus caesius (Schad. : Fr.) Gilbn. & Ryv.

■ タコウキン科 / オシロイタケ属 / アオゾメタケ

傘は半円形で、直径数センチ、厚さは0.5~2mmで最初は白いがやがて青みを帯びる。表面には密毛がある。肉は生では柔軟だが乾くとコルク質となる。針葉樹の枯れ木などに腐朽する。日本や北半球に分布する。ナギの谷で確認。

シイサルノコシカケ

Perenniporia tephropora (Mont.) Ryv.

■ タコウキン科 / ベレニボリア属 / シイサルノコシカケ

子実体は強い背着生を示しながら拡がり、厚く生長した側面が傘状となる。傘は褐色で微毛がある。上面はでこぼこしている。子実層は汚白色からうす褐色である。シイノキの古木の幹や枝に生え、白腐れを起こす。樫野で確認。(写真 p.13)

ヒイロタケ

Pycnoporus coccineus (Fr.) Bond. & Sing.

■ タコウキン科 / シュタケ属 / ヒイロタケ

傘は半円形で、幅3~10cm、厚さ3~7mmである。表面は朱色でのちに白みを増す。肉はコルク質または革質である。傘下面は濃紅色である。広葉樹の枯れ木や枯れ枝に群生する。材の白腐れを起こす。熱帯アジアに分布する。紀伊大島ではナギの谷と金山で確認した。

ホウネンタケ

Roseofomes subflexibilis (Berk. & Curt.) Aoshi.

■ タコウキン科 / ホウネンタケ属 / ホウネンタケ

子実体は半背着生で、立ち枯れ木では傘を作る。傘は半円形で、幅10cmおよび厚さ5cmである。上面はうす紫褐色で、同心円状の隆起がある。下面はうす灰褐色である。肉は褐色。広葉樹の枯れ木に発生し、材の白腐れを起こす。赤崎で確認。

アナタケ

Schizopora paradoxa (Schrad. : Fr.) Donk

■ タコウキン科 / シゾポーラ属 / アナタケ

子実体は全背着生で、傘がなく合着して広がる。卵黄色で厚さは2mmである。広葉樹の枯れ木や落ちた枝に発生し、材の白腐れを起こす。里利山で確認。(写真 p.13)

クジラタケ

Trametes orientalis (Yasuda) Imaz.

■ タコウキン科 / シロアマタケ属 / クジラタケ

傘は半円形で樹皮に着生、重層して群生する。幅は5~10cmで厚さ0.5~1cmである。表面は灰色で、細かい粉毛がある。肉は汚白色でコルク質、堅い。下面は汚白色。広葉樹の枯れ木に群生する。日本や台湾などに分布する。大耳浜で確認。

シロカイメンタケ

Tyromyces sambuceus (Lloyd) Imaz.

■ タコウキン科 / シミタケ属 / シロカイメンタケ

一年生で傘は半円形、幅は10~20cmで厚さ1~3cmである。表面はシナモン色から暗褐色で粉状の密毛で覆われるが、やがて白くなる。肉はサーモン色からやがて白くなる。シイノキなどの枯れ木に生じて、材の白腐れを起こす。日本と中国に分布する。一つ松で確認した。



ホウキタケ科 (RAMARIACEAE)

ハナホウキタケ

Ramaria formosa (Pers. : Fr.) Quél.

■ ホウキタケ科 / ホウキタケ属 / ハナホウキタケ

樹枝状に分枝し、高さは10cm。オレンジ色または汚桃色で、枝の先は黄色である。肉は白色だが、傷つけると赤褐色となる。有毒らしい。秋に広葉樹林内の地上に群生する。世界に分布する。大森山で確認した。



ニクハリタケ科 (STECCHERINACEAE)

ニクハリタケ

Steccherinum ochraceum (Pers.) S. F. Gray

■ ニクハリタケ科 / ニクハリタケ属 / ニクハリタケ

子実体は半背着生で、貝殻状の傘となる。傘は1~3cm、革質で薄い。表面は白から黄白色、綿毛が密に生える。肉は白色で強い。広葉樹の枯れ枝、ホダ木に群生し、材の白腐れを起こす。分布は日本、欧州、アメリカに分布する。里利山で確認。



ウロコタケ科 (STEREACEAE)

キウロコタケ

Stereum hirsutum (Willd. : Fr.) S. F. Gray

■ ウロコタケ科 / キウロコタケ属 / キウロコタケ

子実体は一年生で半背着生、上半分は反転して傘を張り出す。傘は半円形で革質、重生する。幅は1~3cm、厚さ1mm。表面は灰白色から灰黄色で粗毛がある。肉は白い。子実層面はオレンジ色でのちに焦る。材を白く腐朽する。世界に分布する。大耳浜で確認。

チャウロコタケ

Stereum ostrea (Bl. & Nees) Fr.

■ ウロコタケ科 / キウロコタケ属 / チャウロコタケ

子実体は一年生で、傘はやや扇形で革質、多数重生する。傘の幅は1~5cmで厚さ0.5~1mmである。表面は灰白色の密毛部分と褐色の無毛部分が交互に成層する。肉は白い。広葉樹の枯れ木などに群生する。材の白腐れを起こす。世界に分布する。里利山で確認。

モミジウロコタケ

Xylobolus spectabilis (Klotz.) Boidin

■ ウロコタケ科 / カタウロコタケ属 / モミジウロコタケ

子実体は一年生、屋根瓦状に多数重生する。傘は扇形で切れ込みがある。表面は褐色系で光沢があり、無毛で放射状の筋模様がある。子実層は灰白色である。シイノキなどの枯れ木に多数群生する。本州以南、東南アジア、豪州、アフリカに分布する。赤崎、須江赤崎、大森山で確認。 (写真 p.14)

ホコリタケ目
LYCOPERDALES

ヒメツチグリ科 (GEASTRACEAE)

シロツチガキ

Geastrum fimbriatum (Fr.) Fisch.

■ ヒメツチグリ科 / ヒメツチグリ属 / シロツチガキ

地方名 チドメ (大島)

子実体は幼菌時に直径が0.8~2cmの球形で、先が尖る。表面は褐色系の菌子束をに覆われ、熟すと星形に開く。秋に、林内の腐植土に群生する。日本、欧州、北米、豪州に分布する。ナギの谷で確認。

エリマキツチグリ

Geastrum triplex (Jung.) Fisch.

■ ヒメツチグリ科 / ヒメツチグリ属 / エリマキツチグリ

地方名 チドメ (大島)

子実体は若いときは埋生するが、地表に現れて直径2~3cmのギボウシ形となる。外皮は緑褐色で、熟すと星形に分裂する。内皮は環状に裂けて皿状となる。夏から秋に、林内の落葉の多いところに群生する。世界に分布する。赤崎にて確認。

ホコリタケ科 (LYCOPERDACEAE)

ノウタケ

Calvatia craniformis (Schw.) Fr.

■ ホコリタケ科 / ノウタケ属 / ノウタケ

子実体は白色または褐色で卵球形、直径は5~8cmで高さ6~10cmである。熟すと益汁となり悪臭を出し、最後には綿クズとなる。梅雨から秋にかけて腐葉土などに群生する。世界に分布する。赤崎、大耳浜、里利山で確認。

ホコリタケ

Lycoperdon perlatum Pers. : Pers.

■ ホコリタケ科 / ホコリタケ属 / ホコリタケ

子実体はイヌビワ形で直径2~6cm、高さ3~6cmである。幼菌時は白色で次第に黄褐色となる。熟すと臭い液汁を出し、褐色の粉状体となる。梅雨から秋に林地や草地に群生する。世界に分布する。大耳浜、大森山、須江赤崎で確認。

スッポンタケ目

PHALLALES

アカカゴタケ科 (CLATHRACEAE)

サンコタケ

Pseudocolus schellenbergiae (Sumst.) Johnson

■ アカカゴタケ科 / サンコタケ属 / サンコタケ

成熟し殻皮が破れると、3つのオレンジ色の腕と托が伸びる。熟して液化すると大変臭い。梅雨から秋に竹林、林地、路傍に群生する。北半球、豪州、ニュージーランドに分布する。ナギの谷、大森山、須江赤崎にて確認。

スッポンタケ科 (PHALLACEAE)

キツネノエフデ

Mutinus bambusinus (Zoll.) Fisch.

■ スッポンタケ科 / キツネノロウソク属 / キツネノエフデ

成熟すると、一つの托が伸びる。托は長円錐形で先が細まる。濃い紅色で下方ほど白くなり、袋入りする。上部に黒褐色の粘液を付け、悪臭を出す。梅雨から秋に竹林、畑地、路傍に単生または群生する。北半球、南米に分布する。大森山で確認。 (写真 p.14)

スッポンタケ

Phallus impudicus Pers.

■ スッポンタケ科 / スッポンタケ属 / スッポンタケ

幼菌は半地中生で白色、直径4~6cmの球形である。成熟すると、傘と柄が裂開後に伸長し、高さ9~15cmとなる。傘は円錐状鐘形で表面はうす黄色、暗緑色の臭い粘液を付ける。柄は円筒形で白色、中空である。夏に林内の腐朽土に発生する。日本、中国、スリランカ、インドネシアに分布する。里利山で確認。 (写真 p.14)

ケシボウズタケ目

TULOSTOMATALES

クチベニタケ科 (CALOSTOMATACEAE)

クチベニタケ

Calostoma japonicum P. Henn.

■ クチベニタケ科 / クチベニタケ属 / クチベニタケ

子実体の頭部は、直径5~10mm、うすい飴色で表面はささくれたり点々がある。根状の擬柄部は飴色で柔らかい。夏から秋に切り通しや裸地、路傍に群生または散生する。日本に分布する。里利山で確認。 (写真 p.14,15)

キクラゲ目

AURICULARIALES



キクラゲ科 (AURICULARIACEAE)

アラゲキクラゲ

Auricularia polytricha (Mont.) Sacc.

■ キクラゲ科 / キクラゲ属 / アラゲキクラゲ

地方名 キクラゲ (大島、須江、檜野)

子実体は不定形な耳状で、縁は波打つ。密毛に覆われた灰褐色の背面で基物につく。大きさは数センチかそれ以上となり、ゼラチン質である。乾くと堅くなる。子実層は褐色である。春から秋に、亜熱帯では冬でも、ヒメユズリハなどの広葉樹枯れ木に群生または単生する。食用となる。日本、アジア、新大陸、オセアニアに分布する。紀伊大島では、赤崎、須江、大森山で確認。

アカキクラゲ目

DACRYMYCETALES



アカキクラゲ科 (DACRYMYCETACEAE)

ハナビラダクリオキン

Dacrymyces palmatus (Schw.) Burt.

■ アカキクラゲ科 / アカキクラゲ属 / ハナビラダクリオキン

脳味噌状で後になると、浅く裂けて葉状となる。全体はゼラチン質で直径は1~6cmでダイダイ色。枯れた針葉樹の幹の上に生える。全世界に分布する。紀伊大島では大森山で確認。

ツノマタタケ

Guepinia spathularia (Schw.) Fr.

■ アカキクラゲ科 / ツノマタタケ属 / ツノマタタケ

柄がありへら形または扇形で高さ4~7mm、直径は2~7mmである。軟骨のようで多少ぬめりがある。オレンジ色でスベスベしている。枯れた幹に生える、全世界に分布する。大森山で確認。



子囊菌亞門

ASCOMYCOTINA

チャワソタケ目

PEZIZALES

ピロネマキン科 (PYRONEMATACEAE)

ヒロチャワソタケ

Aleuria aurantia (Fr.) Fuckel

■ ピロネマキン科 / ヒロチャワソタケ属 / ヒロチャワソタケ

お椀形から皿形となり、直径2~10cmで柄がない。赤色系で外側の方が色が淡い。秋頃に林道沿いの裸地などに群生し、目立つ。全世界に分布する。大耳浜で確認。

ベニチャワソタケ科 (SARCOSYPHACEAE)

ベニチャワソタケモドキ

Sarcosypha occidentalis (Schw.) Sacc.

■ ベニチャワソタケ科 / ベニチャワソタケ属 / ベニチャワソタケモドキ

柄があり鮮やかな赤色で、ゼラチン質、椀の直径は5~20mmでほとんど無毛である。温帯から亜寒帯に分布する。里利山で確認。 (写真 p.15)

クロサイワイタケ目

XYLARIALES



クロサイワイタケ科 (XYLARIACEAE)

ヒメアカコブタケ

Hypoxylon howeianum Peck

■ クロサイワイタケ科 / アカコブタケ属 / ヒメアカコブタケ

子座は半球形で赤褐色、直径1~20mmで高さ1~10mmである。隣接する子座は癒着しやすい。質はコルクのようである。広葉樹の倒木上に生える。世界に分布する。里利山で確認。

クロコブタケ

Hypoxylon truncatum (Schw. : Fr.) Miller

■ クロサイワイタケ科 / アカコブタケ属 / クロコブタケ

子座は半球形また平らで黒くて硬く、子のう殻をやや埋没させる。広葉樹の枯れた幹に生える。シイタケのホダ木栽培に害を及ぼす。里利山で確認。

(写真 p.15)

この図鑑に登場する学名の命名者名とその略記との対照表

略記名	命名者名	フルネーム
Alb.	Albertini	Johannes Baptista von Albertini
Aoshi.	Aoshima	Kiyowo Aoshima
Berk.	Berkeley	Miles Joseph Berkeley
Bl.	Blume	Carl Ludwig von Blume
Bolt.	Bolton	James Bolton
Bond.	Bondarstev	Pollinaris Semenovich Bondarstev
Bres.	Bresadola	Giacopo Bresadola
Bull.	Bulliard	Jean Baptiste Pierre Bulliard
Burt.	Burton	Mary Gwendolyn Burton
Curt.	Curtis	William Curtis
DC.	de Candolle	Augustin Pyramus de Candolle
Ditm.	Ditmar	L. P. Fr. Ditmar, fl.
Fisch.	Fischer	Edward Fischer
Fr.	Fries	Elias Magnus Fries
Gilbn.	Gilbertson	Robert Lee Gilbertson
Gill.	Gillet	Claude-Casimir Gillet
Henn.	Hennings	Paul Christoph Hennings
Hook.	Hooker	William Jackson Hooker
Imaz.	Imazeki	Rokuya Imazeki
Jungh.	Junghuhn	Franz Wilhelm Junghuhn
Kauffm.	Kauffmann	Nikolai Nikolajevich Kauffmann
Karst.	Karsten	Petter Adorf Karsten
Klotz.	Klotzsch	Johann Friedrich Klotzsch
Krombh.	Krombholz	Julius Vincenz von Krombholz
L.	Linnaeus	Carl von Linnaeus
Lév.	Lévier	Emile Lévier
Leyss.	Leysser	Friedrich Wilhelm von Leysser
Mass.	Massee	George Edward Massee
Mont.	Montagne	Jean Pierre Francois Camille Montagne
Murr.	Murrill	Willian Alphonso Murrill
v. Over.	van Overeem	Casper van Overeem
Pat.	Patouillard	Narcisse Theophile Patouillard
Pers.	Persoon	Christiaan Hendrick Persoon
Quél.	Quélet	Lucien Quélet
Ryv.	Ryvarden	Leif Ryvarden
Sacc.	Saccardo	Pier Andrea Saccardo
Schad.	Schade	Friedrich Alwin Schade
Schaeff.	Schaeffer	Jacob Christian Schaeffer
Schrad.	Schrader	Heinrich Adolph Schrader
Schw.	Schweinitz	Ludwig David von Schweinitz
Scop.	Scopli	Joannes Antonius Scopoli
Secr.	Secretan	Gabriel-Abraam-Samuel-Jean Louis Secretan
Sing.	Singer	Rolf Singer
Sumst.	Sumstine	David Ross Sumstine
Willd.	Willdenow	Carl Ludwig von Willdenow
Wulf.	Wulfen	Franz Xavier von Wulfen
Zoll.	Zollinger	Heinrich Zollinger

R. K. Brummitt and C. E. Powell (1992) 編集の "Authors of Plant Names" による。

■ 著者の紹介

梅本信也：1959年和歌山県和歌山市生まれ、県立桐蔭高校から京都大学農学部、同大学院博士課程修了、現在は京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所勤務、和歌山県串本町在住。農学博士。

種坂英次：1960年大阪府河内市生まれ、奈良県立奈良高校から大阪府立大学農学部、同大学院博士課程中退、現在は近畿大学農学部勤務、奈良県平群町在住。農学博士。

紀伊大島きのこガイド

A field guide for the mushrooms of
Kii-oshima Island, 2000

発行 2000年9月20日

著者 梅本信也・種坂英次

印刷 コスミック

京都市山科区日ノ岡鴨土町45

Tel : 075-502-1861

〈無断転載を禁ず〉

23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0

きのこの傘とヒダの関係



隔生



離生



上生



湾生



直生

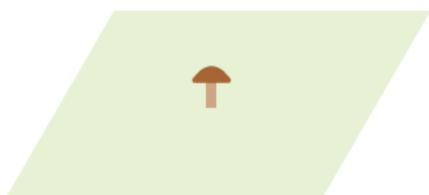


垂生

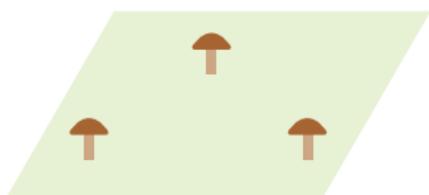


長く垂生

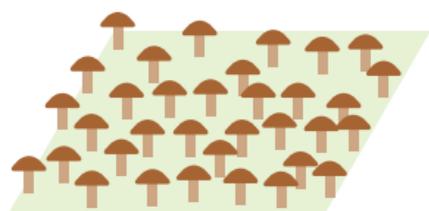
きのこの生え方



弧生



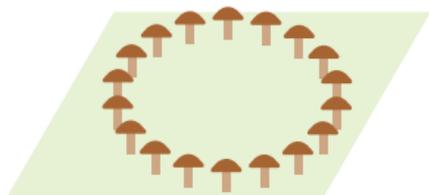
散生



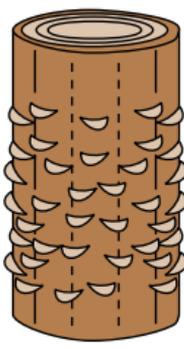
群生



束生



菌輪



重生